

安全データシート

1. 化学品等及び会社情報

製品名	トランス染色液
品番	42231 (100ml 包装) 42232 (500ml 包装)
会社名	武藤化学株式会社
住所	東京都文京区本郷 2-10-7
電話番号	03-3814-5511
ファックス番号	03-3815-4832
電子メールアドレス	mutopop@mutokagaku.com
緊急連絡電話番号	03-3814-5511
推奨用途及び使用上の制限	検査・研究用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	GHS 分類基準に該当しない	
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	【フェノール】区分 3
	急性毒性（吸入：ガス）	分類できない
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	【フェノール】区分 1A
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	【フェノール】区分 1
	呼吸器感作性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	【フェノール】区分 1B
	発がん性	【オーラミン 0】区分 2
	生殖毒性	【フェノール】区分 1B
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	【フェノール】区分 1（呼吸器、心血管系、腎臓、神経系）
		【ローダミン B】区分 3（気道刺激性）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	【フェノール】区分 1（心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系）
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	【フェノール】区分 2

【ローダミン B】 区分 3

水生環境慢性有害性

【ローダミン B】 区分 3

注) 上記の GHS 分類で区分の記載がない危険有害性項目については、政府向けガイダンス文書で規定された「分類対象外」、「区分外」、または「分類できない」に該当する。なお、健康有害性については後述の 11 項に、「分類対象外」、「区分外」、または「分類できない」の記述がある。

GHS ラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

飲み込むと有害

皮膚に接触すると有毒

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷

重篤な眼の損傷

遺伝性疾患のおそれ

発がんのおそれ

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

呼吸器、心血管系、腎臓、神経系の障害、気道刺激性

長期又は反復ばく露による心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、

胸腺、中枢神経系の障害

水生生物に毒性

注意書き

安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。一禁煙。

粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

容器を密閉しておくこと。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

接触、又は飲み込まないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

吸入した場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに、医師の手当を受ける。

	皮膚に付着した場合は、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を多量の石鹼と水で洗うこと。汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
	眼に入った場合は、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け、まぶたの裏まで完全に洗うこと。直ちに、医師の治療を受ける。
	飲み込んだ場合は、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに、医師の手当を受ける。
	ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
	漏出物は回収すること。
	火災の場合は、消火するために適切な消火剤を使用すること。
保管	容器を密閉して、直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。施錠して保管すること。
廃棄	内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に依頼して廃棄すること。
他の危険有害性	情報なし

3. 組成及び成分情報

単一・混合物の区別	混合製品				
化学名又は一般名	フェノール	オーラミン 0	ローダミン B	グリセリン	水
濃度又は濃度範囲	7.4%	1.1%	0.56%	56%	34.94%
分子式	C6H5OH	C17H21N3	C28H31N2O3Cl	C3H8O3	H2O
CAS 番号	108-95-2	492-80-8	81-88-9	56-81-5	7732-18-5
官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	(3)-481	(5)-3049	(5)-1973	(2)-242	
分類に寄与する不純物及び安定化添加物	情報なし				

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 直ちに、医師の手当を受ける。
皮膚に付着した場合	直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。 皮膚を多量の石鹼と水で洗うこと。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の処置を受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続け、まぶたの裏まで完全に洗うこと。

飲み込んだ場合	直ちに、医師の治療を受ける。 口をすすぐこと。 患者に吐かせようと試みると、かえって侵されて薄くなった胃壁が破れることがあるから絶対にしてはならない。 直ちに、医師の手当を受ける。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	眼・皮膚の刺激、結膜、角膜の炎症、視力喪失、角膜混濁、薬傷、頭痛、倦怠感、嘔吐、虚脱状態（ショック）、震えや痙攣、皮膚のチアノーゼ。 遅発性症状：肺水腫、中枢神経系、肝臓、腎臓への影響。
応急措置をする者の保護	データなし
医師に対する特別な注意事項	データなし

5. 火災時の措置

消火剤	水噴霧、泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	棒状放水
特有の危険有害性	加熱すると容器が爆発するおそれがある。 極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	全ての着火源を取り除く。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 風下で作業行わない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境中に放出してはならない。
回収・中和	不活性材料（例えば、乾燥砂又は土等）で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
封じ込め及び浄化の方法・機材	危険でなければ漏れを止める。

二次災害防止策

すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い 技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

局所排気・全体換気

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。ー禁煙。

粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

容器を密閉しておくこと。

防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

環境への放出を避けること。

接触、又は飲み込まないこと。

保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

接触回避

『10. 安定性及び反応性』を参照。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

保管 技術的対策

消防法の規制に従う。

保管条件

容器を密閉して、直射日光を避け、換気の良い涼しい場所で保管すること。

施錠して保管すること。

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から離して保管すること。ー禁煙。

容器包装材料

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度

未設定

許容濃度 日本産業衛生学会

5ppm 19mg/m³

フェノールとして

ACGIH

TLV-TWA:5ppm

フェノールとして

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置し、その位置を明瞭に表示する。

ばく露を防止するため、装置の密閉化又は防爆タイプの局所排気

		装置を設置すること。
保護具	呼吸用保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
	手の保護具	適切な保護手袋を着用すること。
	眼の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	適切な保護衣を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	液体
色	黄褐色
臭い	フェノール臭
臭いのしきい（閾）値	データなし
pH	データなし
融点・凝固点	データなし
沸点、初留点及び沸騰範囲	データなし
引火点	データなし
蒸発速度（酢酸ブチル＝1）	データなし
燃焼性（固体、気体）	データなし
燃焼又は爆発範囲	データなし
蒸気圧	データなし
密度	データなし
比重（相対密度）	データなし
溶解度	水に可溶
n-オクタノール／水分配係数	データなし
自然発火温度	データなし
分解温度	データなし
粘度（粘性率）	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
化学的安定性	法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
危険有害反応可能性	酸化剤と反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
避けるべき条件	高温、混触危険物質との接触
混触危険物質	酸化性物質
危険有害な分解生成物	燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

参考	フェノール (CAS. 108-95-2) のデータを記載
----	-------------------------------

オーラミン0(CAS. 492-80-8)のデータを記載	
ローダミンB(CAS. 81-88-9)のデータを記載	
急性毒性	経口
	【フェノール】ラット:LD50=414mg/kg、512mg/kg、400mg/kg、340mg/kg、445mg/kgより、飲み込むと有害(区分4)
	【オーラミン0】ラット:LD50=1100mg/kg (DFGOT Vol. 4, 1992)より区分4。なお、EU分類においてR22に区分されている。なお、オーラミン塩酸塩の既存分類についてはID694オーラミン塩酸塩(N I T E (Access on Feb. 2009))を参照の事。
	【ローダミンB】マウス:LD50=887mg/kg bw (RTECS (2006); TOERD9 Toxicological European Research. 1, 23, 1978)よりGHS区分4。
	経皮
	【フェノール】ラット:LD50=670mg/kg、ウサギ:LD50=850mg/kg、1400mg/kgより、皮膚に接触すると有毒(区分3)
	【オーラミン0】データがないため分類できない
	【ローダミンB】データがないため分類できない
	吸入(ガス)
	【フェノール】データがないため分類できない
	【オーラミン0】GHS定義における固体である。
	【ローダミンB】GHS定義における固体である。
	吸入(蒸気)
	【フェノール】データがないため分類できない
	【オーラミン0】データがないため分類できない
	【ローダミンB】データがないため分類できない
	吸入(粉塵、ミスト)
	【フェノール】データがないため分類できない
	【オーラミン0】データがないため分類できない
	【ローダミンB】データがないため分類できない
皮膚腐食性及び刺激性	【フェノール】ウサギを用いた皮膚刺激試験及びヒトへの健康影響データで、皮膚腐食性が認められた。ウサギ:500mg/24H-重度の刺激性、ウサギ:100mg-軽度の刺激性のため、重篤な皮膚の薬傷・目の損傷(区分1A)
	【オーラミン0】データがないため分類できない。なお、オーラミン塩酸塩(CAS: 2465-27-2)においては、ウサギの試験において刺激性は認められなかった(DFGOT Vol. 4, 1992)。
	【ローダミンB】データ不足で分類できない
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	【フェノール】ウサギを用いた眼刺激性試験(10%グリセリン溶液、又は5%水溶液の眼への適用)で、角膜の完全な混濁がみられた。ウサギ:5mg-重度の刺激性、ウサギ:5mg/30秒-軽度の刺激性のため、重篤な眼の損傷(区分1)
	【オーラミン0】動物を用いた試験データがなく、分類できないとした。しかしながら、EU分類においてXi; R36に区分されている。なお、オーラミン塩酸塩(CAS: 2465-27-2)のデータでは、ウサギ

	の試験において「重度の刺激性を示したが、8日以内に回復した (severe irritation which, however, healed within 8 days.)」とある (DFGOT Vol. 4, 1992)。 【ローダミンB】 データ不足で分類できない
呼吸器感作性	【フェノール】 モルモットを用いたMugnussen and Kligman skin sensitization test及びマウスを用いたMEST法とともに陰性。また、ヒトボランティアの試験で陰性。 【オーラミン0】 データがないため分類できない
皮膚感作性	【ローダミンB】 データがないため分類できない 【フェノール】 モルモットを用いたMugnussen and Kligman skin sensitization test及びマウスを用いたMEST法とともに陰性。また、ヒトボランティアの試験で陰性。 【オーラミン0】 データがないため分類できない
生殖細胞変異原性	【ローダミンB】 データがないため分類できない 【フェノール】 体細胞 in vivo 変異原性試験(染色体異常試験)は陽性。経世代生殖細胞 in vivo 変異原性試験のデータはない。遺伝性疾患のおそれ (区分1B) 【オーラミン0】 マウスを用いた小核試験(in vivo変異原性試験)として、腹腔内投与が2例、経口投与が1例報告されているが、いずれの試験においても陰性の結果 (DFGOT Vol. 4(1992))であることから区分外とした(本邦において5つのマウスの小核試験(ipまたはpo)が実施されたが陰性である。なお、in vitro変異原性試験として、エームス試験、CHO細胞を用いた染色体異常試験において陽性結果が得られている 【ローダミンB】 エームス試験で陽性および陰性、ホエジカの線維芽細胞での染色体異常試験で陽性の結果があるが、エームス試験の陽性は不純物の影響によるとされている(The EFSA Journal 263(2005))。(GHS分類：in vivo 試験のデータがなく分類できない)
発がん性	【フェノール】 IARCはグループ3(ヒト発がん性に分類できない物質)。ACGIHはグループA4(ヒト発がん性に分類できない物質)。EPAはグループD(ヒト発がん性評価には証拠が不十分な物質)。 【オーラミン0】 ラットの87週間経口投与試験において、投与後4-35週間で92 %が肝臓がんを引き起こし (IARC vol. 1, 1972;HSDB, 2003)、ラットの9ヶ月経口投与試験においても、悪性の肝細胞がんが1500, 2000mg/kgの濃度において見られた (DFGOT Vol. 4, 1992)。また、マウスの52週間経口投与試験においても、対照と比較して高い肝臓がん(オーラミン摂取/対照=7/0)、およびリンパ腫

	(オーラミン摂取/対照=11/5)が見られた(IARC vol. 1, 1972;DFGOT Vol. 4, 1992;HSDB, 2003)。さらに既存分類において日本産業衛生学会第2群B、IARCが2B、EUが3に区分していることから区分2とした。 【ローダミンB】 IARCにおいてGroup 3(IARC 16(1978))。ラット及びマウスの長期(約2年)の経口及び経皮投与試験において、本物質に発がん性があるとの証拠は得られていない(IARC 16(1978))。(GHS分類：分類できない)
生殖毒性	【フェノール】 ラットの世代繁殖毒性試験において、親動物に一般毒性影響のみられない用量で、産児数の減少がみられた。生殖能又は胎児への悪影響のおそれ(区分1B) 【オーラミン0】 データがないため分類できない 【ローダミンB】 マウス、ラット、ウサギ、イヌにおいて催奇形性が認められなかったとの報告が複数ある(HSDB(2002)、Birth Defects(3rd, 2000)、Teratogenic(12th, 2007))が、親の性機能、生殖能への影響が不明である。(GHS分類：データ不足で分類できない)
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	【フェノール】 ヒトで、心臓、血管に対する影響、呼吸数過多、呼吸困難、心臓律動不整、心血管性ショック、重度の代謝性アシドーシス、メトヘモグロビン血症、急性腎不全、腎臓障害、暗色尿、けいれんなどの神経系への影響、心臓の律動異常、不整脈及び徐脈が認められた。実験動物で、瞳孔反射の強い抑制がみられた。なお、実験動物に対する影響はいずれも区分1に相当するガイドランス値の範囲でみられている。標的器官は呼吸器、心血管系、腎臓、神経系と考えられた。 呼吸器、心血管系、腎臓、神経系の障害(区分1) 【オーラミン0】 データがないため分類できない 【ローダミンB】 自動車修理工場において本物質のパウダーを誤って床にこぼしてしまい、それに30分程度ばく露したヒトが、急性症状(鼻の熱傷、胸の痛みや締め付けられるような感覚、咳、呼吸困難、のどの痛み、胸焼け)を訴えたという報告(HSDB(2002)、The EFSA Journal 263(2005))があることより、区分3(気道刺激性))。
特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	【フェノール】 ヒトで、心血管系疾患に起因する死亡率の増加、非抱合型新生児高ビリルビン血症、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、溶血性貧血、メトヘモグロビン血症、糸球体変性、尿細管壊死、乳頭細胞出血が認められた。実験動物で、赤血球数の有意な減少、T細胞依存抗原 に対する抗体産生能の抑制、腎臓で尿細管のタンパク円柱及び壊死、乳頭の出血、脾臓/胸腺の萎縮/壊死、肝

細胞の空胞変性、中枢神経系への重篤な影響(傾斜板試験上での行動)、肝臓障害がみられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられている。標的臓器は心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系と考えられた。

長期又は反復ばく露による心血管系、肝臓、消化管、血液系、腎臓、脾臓、胸腺、中枢神経系の障害(区分1)

【オーラミン0】ラットの経口投与試験としてオーラミン純度の低い物質(染料87%、残余物NaCl, Na₂SO₄、そしてMichler'sケトン微量を含む)を区分2に該当する400ppm(90日換算60mg/kg/day)の濃度で4週間、または200ppm(10mg/kg day)の濃度で90日、2年間投与しても毒性影響は見られていない(DFGOT Vol. 4, 1992)。しかし区分2のガイダンス値を超える300, 500, 1000, 1500, 2000 mg/kg/dayの用量で実施された、ラットの9ヶ月間の経口投与において、投与後3ヶ月で2000mg/kgの濃度において肝硬変、腺線維症、胆管増殖そして肝臓の変質が見られ、1500mg/kgの濃度においても後に同様の所見が確認された。肝細胞の変性病巣は3ヶ月後に1500, 2000mg/kgの濃度で、6ヶ月後に500mg/kgの濃度で、9ヶ月後に300mg/kgの濃度において見られているが(DFGOT Vol. 4, 1992)、ガイダンスの範囲においては試験が実施されていないことからデータ不足で分類できないとした。

【ローダミンB】ラットを用いた18週間の混餌試験(0, 0.1, 0.25, 0.5, 1.0 or 2.0%; 100, 250, 500, 1000mg/kg/bw)において、最高用量を投与した群に肝障害が認められたのとの報告があるが(IARC 16(1987))、いずれも区分外の投与量であり、このデータのみでは分類できない。(GHS分類：データ不足により分類できない)

誤えん有害性

データがないため分類できない。

1 2. 環境影響情報

生態毒性 水生環境急性有害性

【フェノール】甲殻類(ネコゼミジンコ属)：LC₅₀=3.1mg/Lより、水生生物に毒性(区分2)

【オーラミン0】データがないため分類できない。

【ローダミンB】甲殻類(オオミジンコ)：EC₅₀=22.9 mg/L 48時間(AQUIRE, 2011)より、区分3

水生環境慢性有害性

【フェノール】急速分解性があり(BODによる分解度：85% 18))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log K_{ow}=1.46 29))ことから、区分外とした。

	【オーラミン0】データがないため分類できない。
	【ローダミンB】急性毒性区分3であり、急速分解性がない(難分解、BODによる分解度：0%(既存点検, 1987))ため、区分3。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。

1 3．廃棄上の注意

残余廃棄物	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可(収集運搬業許可、処分業許可)を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票(マニフェスト)を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
汚染容器及び包装	内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、ラベルをはがし内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

1 4．輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報と、分類実施中の 12 項の環境影響情報とに、基づく修正の必要がある。		
国際規制	国連番号	非該当
	国連品名	非該当
	国連危険有害性クラス	非該当
	容器等級	非該当
国内規則	海上規制情報	非該当
	航空規制情報	非該当
	陸上規制情報	非該当
特別安全対策	輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。 重量物を上積みしない。	

1 5．適用法令

労働安全衛生法	名称等を表示すべき危険有害物(法第 57 条、施行令第 18 条別表第 9) 【フェノール(含有率 0.1%以上)】【オーラミン 0(含有率 1%以上)】 名称等を通知すべき危険有害物(法第 57 条の 2、施行令第 18 条の 2 別
---------	---

	表第 9) 【フェノール(含有率 0.1%以上)】【オーラミン 0(含有率 0.1%以上)】
	特定化学物質第 3 類物質(特定化学物質障害予防規則第 2 条第 1 項第 6 号) 【フェノール(含有率 5%超)】
	特定化学物質第 2 類物質、オーラミン等(特定化学物質障害予防規則第 2 条第 1 項第 2, 4 号) 【オーラミン 0(含有率 1%超)】
	リスクアセスメントを実施すべき危険有害物(法第 57 条の 3) 【フェノール】【オーラミン 0】
	特定化学物質特別管理物質(特定化学物質障害予防規則第 38 条 3) 【オーラミン 0】
毒物及び劇物取締法	劇物(法第 2 条別表第 2) 【フェノール(含有率 5%超)】
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 法)	第 1 種指定化学物質(法第 2 条第 2 項、施行令第 1 条別表第 1) 【フェノール(含有率 1%以上)】
化審法	優先評価化学物質 【フェノール】
消防法	非該当
水道法	非該当
水質汚濁防止法	指定物質 【フェノール】
大気汚染防止法	特定物質 【フェノール】 有害大気汚染物質 【フェノール】 揮発性有機化合物(VOC)法第 2 条第 4 項 【フェノール】
海洋汚染防止法	非該当
労働基準法	疾病化学物質(法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 4 号) 【フェノール】 がん原性化学物質(法第 75 条第 2 項、施行規則第 35 条別表第 1 の 2 第 7 号) 【オーラミン 0】
船舶安全法	毒物類・毒物(危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1) 【フェノール】【オーラミン 0】
航空法	毒物類・毒物(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1) 【フェノール】【オーラミン 0】

16. その他の情報

参考文献

化学物質管理促進法 PRTR・MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法 MSDS 対象物質全データ	化学工業日報社
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版

化学物質安全性データブック

オーム社

公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)

三共出版

化学物質の危険・有害性便覧

労働省安全衛生部監修

GHS 分類結果データベース

nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)

GHS モデル MSDS 情報

中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有毒性の評価は、現時点で入手できる資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。